

## フィンドレー大学奨学生レポート（8月）

### フィンドレーの空気を感じた8月

こんにちは。23年度の奨学生の塚越悠紀と申します。私の場合、今回が初の海外経験であり、アメリカという国、フィンドレーという町の全てを新鮮に感じています。このレポートを読まれた方が、フィンドレー市やオハイオ州はどのようなところか、興味を持って頂けるよう努めたいと思います。特に、初めて海外で生活をする者の視点から現地の風土や交流の様子をお伝えしていきたいと思いますので、これから海外を目指す方にとって、少しでも不安を取り除けられる内容となれば幸いです。

現地時間の16日午後11時に、私はオハイオ州フィンドレー市に到着しました。暦は8月ですが、埼玉県では考えられないような肌寒いくらいの風が私を迎えてくれました。オハイオ州は日本の青森県と同じ緯度であり、湿気が全く感じられません。本当に過ごしやすい、進んで外に出掛けたくくなるような快適な気候だと思います。



晴れ渡った日の景観（フィンドレー大学内にて）

フィンドレー大学では、授業が開講される前の週にオリエンテーションの期間が設けられており、そこでは在學生や新入生、職員と交流する様々なイベントが行われます。キャンパス内では、ジュースやホットドッグなどが振る舞われ、アトラクションが設置される日もあります。これらの内容が面白いのはも

もちろんですが何より素晴らしいと感じたのは、どの学生もイベントを楽しもうという気持ちにあふれ、本気で参加している姿でした。当初私は学生の人種の多様さに圧倒され、中へ混ざることには少し消極的だったのですが、その熱気にあてられていくうちに自然と足が進み、楽しみを共有していきました。大学全体が交流することに積極的である姿勢は、私たち日本の学生も見習うべきではないか、と感じさせてくれました。



イベントに参加する学生達

こちらの学生に話しかけると、誰もが気さくに応じます。また、教授や職員の方も同様です。笑顔を絶やさないこと、ボディランゲージを交えて会話することが会話の内容以上に、印象に残ります。今まで気に留めていなかった仕草や態度がどれほどその人の印象に影響しているか、実感せずにはいられません。日本ではなし得ない、貴重な経験だと思います。末筆ではありますが、このような素晴らしい機会を与えて頂いたことに大変感謝しております。